

## 巻頭言

## 就任挨拶

理事長 田中 潔

この度、森林総合研究所の理事長を拝命いたしました。関係者の皆様、諸先輩、並びに職員の皆様のご支援を得つつ、この職務を果たすべく全力を尽くす覚悟ですので、よろしくお願いいたします。

森林総合研究所は平成13年4月1日から独立行政法人となりました。この2年間は、新しい組織・運営体制の定着を目指して努力を重ねてまいりました。予測していなかった事態が生まれるたびに、対応方針を決定していくというあわただしい状況でしたが、2年が経過して、所内は徐々に落ち着きを取り戻しつつあります。

第Ⅰ期中期目標期間は平成13年～17年。今年はちょうど中間年に当たります。第Ⅰ期5年間の最終的な成果が、中期計画で約束したことをクリアできるかどうか、あるいは、計画以上の達成度となるかどうかを検討し、遅れの認められる課題には、さらに研究勢力を投入するか、場合によっては軌道修正を図るなど、17年度末を見据えた課題管理を推進する必要があります。

我が国の林業は大変厳しい状況におかれています。国民の森林に対する期待はますます高まっています。林野庁は、地球温暖化を防止する上での森林の重要性が認識されてきたことを受け、「地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策」の実現に向けて、平成15年度予算の中に新たな枠組みを設けました。この10カ年対策の一環として、日本の森林が期待されている吸収量を確保できるかどうかの報告・検証体制を強化するため、森林総合研究所を委託先とする事業予算が計上されました。森林総合研究所にとって、今回のような大型の委託事業は初めての経験であり、その推進体制を確立するために検討を重ねています。

第Ⅰ期中期目標期間の最終年である平成17年は、森林総合研究所の創立100周年と重なります。そのため今年から、記念事業の準備に取り組みます。約1世紀の間、森林・林業・木材産業にかかわる国内最大の試験研究機関として、本支所体制のもとに試験研究を実施してきた成果を集大成し、記念誌としてとりまとめるとともに、第Ⅱ期、第Ⅲ期への、さらなる飛躍に備えたいと思います。

森林・林業基本法及び森林・林業基本計画を踏まえた森林・林業・木材産業に関する試験研究を通じて、森林総合研究所は、持続可能な社会（循環型社会）の構築に貢献していく責務があります。このためにも、関係各位のご支援、ご協力を重ねてお願いし、就任の挨拶といたします。

